

1. 評価結果概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成19年10月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0770403418		
法人名	有限会社 ことほぎ		
事業所名	グループホーム ことほぎ庵		
所在地	〒972-8316 福島県いわき市常磐西郷町岩崎29番地の1 (電 話) 0246-72-0730		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成19年9月15日	評価確定日	平成19年11月12日

【情報提供票より】 (平成19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	12 人
職員数	17 人	常勤 9人, 非常勤 8人, 常勤換算 11.7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円
敷金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 500 円	昼食 500 円	
	夕食 500 円	おやつ 円	
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	12 名	男性 1 名	女性 11 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名
要介護3	3 名	要介護4	4 名
要介護5	5 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.8 歳	最低 75 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	かとう内科クリニック
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

湯本インターから小名浜方面に向かって車で10分のショッピングセンター街の近くに位置するホームである。1ユニットの定員を6名として、重度化した利用者を医療と連携し、支援している。「笑顔の絶えない家庭的な雰囲気の中で、地域の方々と触れ合いながら自分らしく穏やかに生活ができる」という理念を実現するために、利用者や家族との話し合いを大切にしながら、利用者が自分らしく穏やかに過ごせるよう支援している。地域の美容室等を利用し、近所の人達と交流しながら、地域の中で生活できるようになっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	今回の自己評価は、以前の様式が変更になったためにとっても大変であった。職員全員で検討し、作成した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5)
	行政等の出席はなかったが、地域の人等に参加してもらい8月に第1回目の運営推進会議を開催した。事業所の取り組み状況を説明し、医療や重度化した場合についての質問を受けたり、防災訓練への参加希望等が出されたりした。会議の中で出された意見を今後の事業に取り入れていきたいと考えている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	毎月利用料金等の支払いに家族の訪問がある。その時に利用者の状況を説明したり、家族の意見や要望を聞いたりしている。医療に関する質問が多いため、生活状況説明書を事業所独自に作成し、医師からの話やお薬情報を説明するようにした。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域の中学生からの要望で、ハロウィンやお祭りの際に協力したり、事業所内でボランティアによるハーモニカやピアノの演奏会等を定期的に開催している。今後は、演奏会の時に地域の人々を招待したりして、なお一層の連携を図りたいと考えている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で話し合いながら、事業所独自の理念を作り直した。地域住民との交流を大切に考え、近くの美容室や病院等を利用し、待ち時間には地域の人々との交流をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、1階、2階ともホールや食堂から見える場所に掲げている。毎月の職員会議の中で、理念に沿った介護計画になるよう話し合いがされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は設立時に地域を一軒ずつ訪問し、説明をして廻った。ボランティアによるハーモニカの音楽会(年に2回)やピアノの演奏会(月に1回)を開催したり、ハロウィンの時には、地域の中学生と一緒に準備してパーティーを行ったりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を受けるにあたり、自己評価の意義を職員全員で話し合い取り組んだ。前回アドバイスを受けた金銭管理については、利用者が自分で管理できるように改善した。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	8月に第1回目の運営推進会議を行った。行政関係者等の出席はなかったが、地域の人達の参加があり、避難訓練への参加等の協力的な意見や重度化の際の対応に対する質問が出された。それらを今後の事業に活かしていきたいと考えている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は、月1回の利用料の支払いで来訪するので、その時に利用者の現況報告や家族の希望の聞き取りをしている。状況の変化などある時には、生活情報説明書という書式で詳しく健康状態などの報告と説明をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から聞き取った希望等を基に、ケースカンファレンスを3ヶ月に1回行い、運営に反映させている。健康に関することや医療に関することなどの相談は頻繁にあり、それらはその都度対応し、不満や不安にならないようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は、計画作成担当者の交代のみで、一般職員の異動はなく安定している。パートの方も、ホームの理念を説明し、雰囲気合うような方を採用している。特に出入りはなく、ある場合は、ダメージを防ぐために馴染みの職員と共に研修期間をとっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は設立当時からの方が多く、定期ミーティングを通して、必要に応じて研修を進めている。利用者が重度化してきているので、その都度病気に関する知識やアセスメント方法などを話し合い、働きながらトレーニングしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特に同業者との交流はない。運営者は質の向上のため、グループホーム連絡協議会に入会して、情報交換や事業所訪問などをしたいと検討している。	○	相互訪問などの活動や交流を通して、自分の事業所を客観的に見て、一層のサービスの質の向上に期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の定員が1ユニット9名に対してこのホームは6名である。そのため職員は利用者の状況の変化をすぐに感じることができる。草花に詳しい人からは名前を覚えてもらったり、漢字に詳しい方からは、記録時に漢字を覚えてもらったりなど、利用者から覚えてもらうことも多い。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	顔色や笑顔などから判断したり、昼食後のゆったりした時間等を見計り、居室に訪問して声をかけたりして、思いや希望を把握している。困難な場合は、スタッフを代えたりして、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月に1度は本人や家族から聞き取った意向を基に、職員間で話し合い介護計画を作成している。重度の家族からは、頻繁に質問や意見が出され、計画に反映するようにしている。必要に応じて、医療機関などにも協力を要請している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	常に計画や介護方法の見直しの話し合いはあるが、介護計画の期間の記載が無かったり、計画終了時の評価が具体的に明記されていない。	○	本人の意向や希望の評価をして、達成状況を把握し、再アセスメントにつなげてほしい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医が団地内にあり、いつでも受診できる。病状についても変化があれば、随時家族に連絡している。往診をしてくれるかかりつけ医もあり、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営者が看護師で高齢者の重度化や終末期に関する知識があり、医師からの依頼等もあり、重度の方の入居希望が多くある。そのため在宅医療チームなどと連携をして、家族と共に話し合いながら支援しているが、事業所の対応方針など明文化されていない。	○	家族にも分かりやすい言葉で、方針を明文化し、家族の意思を確認書等でその都度把握しながら支援してほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人情報の取り扱いに注意し、入居者への声かけは名字で行っている。居室の入り口には名札をつけていない。職員からも文書等取り扱いの同意書をもらい、退職後についても明記されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	独自の生活習慣表(起床から朝食まで、食事、更衣、入浴、オシャレ、就寝前の過ごし方等記入)に、一人ひとりの好みやペースがアセスメントされている。その日の行動については、職員が毎日利用者から聞き取りを行うようになっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から利用者と一緒に行い、同じ食事を同じテーブルで食べている。材料も吟味され季節の食材が使われていた。後片付けも一緒に行い、一人ひとりの力を活かしながら支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	土曜、日曜日を除く毎日行っている。一番風呂等利用者の要求もあり個々に合わせて、時には入浴剤なども使用し対応している。トラブルのないように配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	一人ひとりの生活歴を深く知り、ホームの玄関前には、縁側のような座るスペースが設けられ、一人になってゆっくりできる場所がある。小さな日本庭園が、職員と利用者に気晴らしの場所となっていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	年間行事で花見、レストランでの食事会、芋煮会等の外出計画がある。重度の人もあり、その日の気分での買い物支援までには至らないものの、家族の協力を得ながら、家族と散歩したりしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階、2階とも出入り口には、事業所で作ったウィンドチャイムがついており、戸が開くとぶつかり合って音が出る仕組みになっていた。いろいろ工夫し、鍵のかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	近くの消防団員の協力を得て、年2回防災訓練は、行われているが避難限界時間などは算定されていない。また、最低限の備蓄なども確認できない。	○	火災だけではなく、災害訓練はいろんな状況を想定して実施してほしい。災害に備えた、水、食糧の備蓄を早急に取り組んでいただきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算をしながら、季節にあったメニューを作成している。水分量もチェックしており、摂取量も確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、居間(多目的フリースペース)を真ん中に南と、北側に3室ずつ配置されている。居間の北側に蓄熱暖房を設置し、火災予防にも配慮されていた。又2階には予備室を配置し、家族が宿泊できるようになっている。椅子テーブルなどの配置も検討され、工夫しながらゆったりとして生活できるような支援がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室面積は、基準では7.43平米だが当ホームは10.35平米と広めになっており、ゆったりと過ごすことができる。また、利用者は馴染みの物を持参しており、思い出のものを飾るなどの工夫をしている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホームことほぎ庵

記入担当者名 川口 光子

評価結果に対する事業所の意見
特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。